横浜国際港都建設審議会

第３回総会

平成１７年１２月６日（火）

＜欠席＞跡田直澄委員、内海麻利委員、岡部明子委員、黒川澄夫委員、
小玉亮子委員、小林重敬委員、千葉信行委員、萩原なつ子委員、
長谷川まや委員、樋口美雄委員

議事

【事務局】　お待たせいたしました。ただいまから、横浜国際港都建設審議会第３回総会を始めさせていただきます。本日も会場内に傍聴席及び記者席を設け、審議を公開して行いますので、ご了承くださいますようお願い申し上げます。それでは、本日の出席委員数をご報告させていただきます。委員総数４１人、出席委員は３１人でございます。ほかに委任状提出委員が５人いらっしゃいます。よって、横浜国際港都建設審議会規則第４条によりまして、会議が成立していることをご報告いたします。それでは、以後の会議の進行を伊波会長によろしくお願いいたします。

【会長】　議事に入ります前に、一言ごあいさつ申し上げたいと存じます。本日はお忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。本審議会は、６月２１日に開催されました第１回総会におきまして、市長から長期ビジョンについての諮問を受けたところでございます。本日までの約５か月半の間に、各部会を５回、起草委員会を３回開催し、活発なご審議をいただいたところでございます。特に起草委員会につきましては、各部会の熱心な審議を踏まえて、ここにございます答申案の作成にご尽力いただいたところであります。心から感謝を申し上げたいと存じます。

本日、この答申案を市長に手渡すという運びにさせていただきたいと思っているところでございます。本日の総会におきまして、どうぞご協力を賜りながら、船を向こう岸へ着けてまいりたいと思っているところであります。よろしくお願い申し上げまして、ごあいさつとさせていただきます。

それでは議事に入ります。議事は「長期ビジョンの策定について」です。まず、事務局から答申案及び資料の説明をお願いいたします。

事務局から資料説明

【会長】　　ありがとうございました。

それでは、起草委員会から、答申案の起草に当たっての考え方について、ご報告をいただきたいと存じます。明石委員長、お願いいたします。

【起草委員長】　　明石でございます。起草委員長としまして、この答申案をまとめさせていただきました。

先ほど事務局からも説明がありましたので、具体的な構成などは省略させていただき、内容的な部分について、起草委員会としての考え方をご報告させていただきたいと思います。

まず、「横浜の都市像」については、各部会において活発に議論されました「横浜らしさ」というものを、１つの大きなキーワードとしてとらえました。この「横浜らしさ」は、現在も存在するものではありますが、それをどのような形で、新しい未来志向の「横浜らしさ」につなげていくかということについて、起草委員会としてアイデアを凝らしました。

市民の持てる力、「市民力」として、横浜は多様で豊富な人材を持ち、活発な市民活動が展開されています。もう１つの「創造力」という要素として、横浜は多様な人々や文化を受け入れる開放性と、日本の窓として常に新たなものを取り入れ生み出していく進取の気風を伝統的に持っています。この「市民力」と「創造力」を相乗的に発揮することで、新しい「横浜らしさ」となる、大都市としての新たな魅力や活力を生み出していくことができるのではないか。そのような都市像を、答申の基本となる土台として描きました。

その土台の上に立つ柱として、我々は５つの点を見出すことができると思います。横浜の特徴であり、他の都市との比較優位に立ち得る国際性を生かしていくことがその１つでありますし、世界で活躍する人々をたくさん育てていくことも必要です。このように、我々は、世界中の知識や知恵が集まる「知の拠点」を目指すということから、市民生活の基礎・基盤となる暮らしの安全・安心に至るまで、５つの柱を構築しました。

そして、この都市像をどのように実現していくかという、取り組みの方向性と内容について、１０個の着眼点を盛り込むことにいたしました。

最後に、全体を貫く基本姿勢として、この都市像の実現に向けて、横浜を支える個人や団体、企業、行政などが、どのように相互に協力しながら取り組んでいくべきなのか、ということを盛り込みました。

これにより、全体として４つの層から成り立つ答申案となっております。

３つの部会において、活発な審議が行われた結果、莫大な数の意見が出されました。起

草委員会は、それに基づき答申案の起草作業を行ったわけでございますが、このような多様なご意見をまとめるということは至難のわざでございました。しかし、３人の部会長の大変なご尽力と、事務局の助力の結果、このような答申案をまとめることができたということでございます。

ご承知のとおり、市民からも４，０００件に近い多様な意見が出されました。なかには中間的なとりまとめで描いた都市像へのご意見も６００件以上ございました。そのようなものも参考にしながら、いわば市民のコンセンサスのもとに我々の審議と作業が進められたと言って良いのではないかと思います。

この場をお借りしまして、起草委員長として、活発なご審議をいただきました各委員のみなさまに心から感謝の言葉を述べさせていただきたいと思います。また、各部会の審議をまとめ、起草委員会の委員としてもご尽力いただきました、ここにおられる福田第１部会長をはじめ、小林第２部会長、跡田第３部会長にも、感謝の言葉を述べさせていただきます。伊波会長のリーダーシップのもと、この答申案をまとめることができたことを、私は大変に光栄に思っております。

起草委員会からの報告につきましては、以上でございます。

【会長】　ありがとうございました。ではここで、ご出席いただいております部会長さんからもご感想等をいただければと思います。福田第１部会長、よろしくお願いします。

【第１部会長】　第１部会の部会長を担当させていただきました、福田でございます。ただいま、明石委員長からもお話いただきましたが、この最終的な答申案に至るまで、３人の部会長が、それぞれの部会から持ち寄った委員のみなさまの意見をなるべく盛り込み、集約するなかで、明石委員長の適切な指導と、打ち出すべきところにはしっかりと焦点を当てていく基本的な姿勢のもと、起草作業をすすめてまいりました。そして、委員のみなさまからいただいた貴重なご意見は、最終的に「各部会の主な意見集」という形でもまとめさせていただいたところでございます。

この間、私どもの部会を支えていただきました委員のみなさま、また、事務局にも、心からお礼を申し上げたいと思います。

私どもは、２０年後の横浜にほんとうに期待をしています。また、今回、その横浜の将来像を描く答申案を作成したということでは、ある種の責任も感じております。

このような意味では、この内容を広く市民のみなさまに認めていただくことができれば、委員あるいは部会長として、大変うれしく思います。

また、審議に当たり、いろいろな形で委員のみなさまから多くのご意見をいただいたことに感謝しますとともに、今この席におりますことを大変光栄に思っております。

【会長】　ありがとうございました。なお、これからの予定でございますが、本日、市長に答申をさせていただいた後に、横浜市が素案として発表し、市民からの意見を広く募集するパブリックコメントを経て、最終的に横浜市会で議決をし、長期ビジョンが策定されることになっているところでございます。それでは、この審議会は本日が最終となりますので、この際、委員のみなさま方からご感想等ございましたら、ご発言いただきたいと存じます。

【委員】　はい。

【会長】　どうぞ。

【委員】　明石委員長をはじめ、３人の部会長さん、大変ご苦労さまでございました。

私の考えでございますけれども、日本の国の言葉の文化、文字の文化、これを忘れさせないために、国語を使って文字にあらわしていただきたいと思います。

【会長】　ご意見でございました。他にございますか。では、この程度にとどめさせていただきます。

それでは、この答申案を本審議会の答申としたいと思いますが、よろしゅうございましょうか。

（「異議なし」の声あり）

（拍手）

ありがとうございます。では、これを本審議会の答申と決定いたします。議事については、これで終了いたします。

なおここで、答申を事務局からお手元にお配りさせていただきますとともに、中田市長に答申をお渡ししたいと存じます。議事は終了いたしましたが、市長到着まで多少の時間がございますので、３時３５分まで休憩とさせていただきます。

（休憩）

【会長】　それでは、答申をお渡しいたします。

横浜市長　中田　宏　様

横浜国際港都建設審議会会長　伊波洋之助

長期ビジョンの策定について

平成１７年６月２１日に諮問のありました長期ビジョンの策定につきましては、横浜国際港都建設審議会条例第１条の規定に基づき、活発に審議を行った結果、別紙のとおり結論を得ましたので答申します。

多くの市民から寄せられた意見などを参考にしながら、委員各位の幅広い意見を集約し、充実した内容の答申となりましたので、今後の策定手続きに際しても、十分に尊重いただきますよう要望します。

また、具体的に示すことができなかった意見などについても、長期ビジョンをさらに具体化する計画の策定時などにおいて、趣旨を可能な限り配慮されるよう要望します。

（答申書手交）

【市長】　ありがとうございました。

（拍手）

【会長】　それでは、中田市長からごあいさつをいただきたいと思います。

【市長】　みなさま、ご紹介いただきました、市長の中田でございます。

ただいま、みなさま方が大変熱心にご審議いただきました答申を、謹んで受けさせていただきました。伊波会長、そして明石起草委員長をはじめとして、本日お集まりのみなさまに、５か月以上にわたり熱心にご議論いただいた、その成果でございますので、まず、心からお礼を申し上げさせていただきたいと思います。ほんとうにありがとうございました。

みなさまにおかれましては、熱心なご議論のなか多くの意見が噴出したということで、私にも逐一報告が来てございまして、その中身についても、常に拝読をさせていただいておりました。本日の答申はその集大成であり、しかも方向性についてもしっかりとおまとめいただいているということでございますので、この答申を十分に踏まえて、これからの横浜市の長期ビジョンづくりを成就させていきたいと思っております。

また、みなさまには、引き続きお見守りいただき、また、折に触れてさまざまなご示唆をいただきますよう、お願い申し上げたいと思っております。

現在も続けておりますけれども、今後も広く市民のみなさまから、本日の答申についてもご意見をいただく機会を設けまして、その上で、私たち横浜市が責任を持って、みなさまからお受けしたバトンをゴールまでしっかりと運んでいくということをしなければなら

ないと思っております。

審議会におかれましては、横浜の将来像を描くという大きなテーマに対して、いろいろな角度からのご意見が出るなかで、明石起草委員長を中心として、その方向性をお出しいただいたわけでございますので、今申し上げましたように、この内容を十分踏まえることは当然のことだと私は思っております。そして、この答申に基づく素案を発表し、多くの市民のみなさまと一緒にこの内容を共有していけるよう、今後の手続きをしてまいりたいと思っております。

横浜は、２００９年に開港１５０周年を迎えます。もう間もなく、２００６年となる年の瀬でありますので、あと３年で１５０周年です。これは横浜市に集う私たちにとって、極めて大きな節目だと思います。

しかし、別に１５０年目を迎えるその日の日付が変わったところで、急に景色が変化するわけではないわけです。ミレニアムと大騒ぎをして２１世紀を迎えるときも、みんなで声をそろえてカウントダウンをしたけれども、２１世紀になったその瞬間、何かバラ色に物事がひらけたかと言えば、別に何もひらけてないわけです。つまり私たちは、日付が変わるとか、１５０周年というその日を待つなどということで、別に何かがひらけるわけなのではなくて、みずからの意思ですすんでいかなければならない。すなわち、私たちが意思を込めて物事を行っていくことの１つのきっかけとするのが、１５０周年だと思いますので、そういう意味において、この長期ビジョンをとりまとめながら、私たちがすばらしい１５０周年を迎えていけるようにしてまいりたいと思います。

最後になりますが、みなさまに、どうか引き続きのご協力をお願いいたしまして、ごあいさつとさせていただきたいと思います。ほんとうにありがとうございました。

（拍手）

【会長】　ありがとうございました。それでは、これをもちまして、第３回総会を閉会いたします。

―― 了 ――